土木賞の「東京メトロ銀座線渋谷駅移設工事」

日本建設業連合会（日建連、宮本洋一会長）は、第3回土木賞と第63回ＢＣＳ賞の受賞プロジェクトと受賞作品を決定した。土木賞には「東京メトロ銀座線渋谷駅移設工事」など、特別賞2件を含む12件、ＢＣＳ賞には「長野県立美術館」など15作品の計27件を選んだ。

土木賞は、さまざまな課題に対して関係者が一丸となって取り組んだ施工プロセスを重視する。今回は41件の応募があった。この中から、生産性向上を実現した新規プロジェクトや、高い技術力が求められた工事、厳しい施工条件を克服した工事など12件を選んだ。

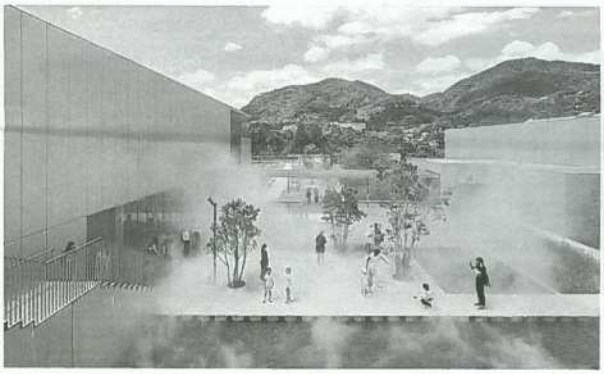
日建連

土木12件、BCS15件決まる

東京メトロ銀座線渋谷駅の移設は、周囲を商業ビルなどに囲まれた狭あいな施工躯塊の中で、鉄道を営業しながら旧構造物を撤去して新構造物を構築。「ＢＩＭ／ＣＩＭなどを駆使し、限られた時間と、厳しい条件で工事を成し遂げた」と評価している。

建築物の建築主と設計者、施工者の「三位一体」を重視し、それら3者を表彰するＢＣＳ賞には78件の応募があった。建物の用途では、複合施設（14件）、学校施設（11件）、事務所ビル（10件）などが多かった。

受賞作品のうち、市民と行政・建築家が協働した「延岡駅周辺整備プロジェクト」（宮崎県）については、「市民が自由に使いこなし、活動の様子を身近に感じ、偶然の出会いを生む、駅であることの魅力が存分に生かされている」と評価した。



BCS賞の「長野県立美術館」

輝け若人

縁の下の力持ちに

鹿児島大学大学院　理工学研究科　1年
工学専攻　海洋土木工学プログラム
東　青龍さん

「ものづくりをしたい」。

これが工学の道を志したきっかけです。そこで、私は専門的な知識がより早く学べる鹿児島工業高等専門学校都市環境デザイン工学科に入学し、その後、鹿児島大学に編入学しました。土木を学んでいく中で、道路や橋の建設には発注者や施工管理者、各分野の技術者などが関わり、設計、施工、維持管理等の実務をしていることを知りました。そこで、多くの専門技術を生かし、われわれの生活になくてはならないインフラ施設を提供していける土木の仕事に魅力を感じ、土木分野でものづくりをしたいと考えるようになりました。大学、大学院と学びを深めていく中で、これからの土木業界の大きな課題が維持管理であることを知りました。

現在、私は建設材料の研究室に在籍し、仲間とともに日々研究に取り組んでいます。研究テーマは維持管理分野に関連するもので、振動計測を用いた新たな橋梁点検手法を開発しています。維持管理を行う上で、効率的な点検手法は特に必要とされているものであり、研究の成果が得られるたびに大きなやりがいを感じています。今後、この研究をやり遂げ、維持管理の分野に発展をもたらせるよう励んでいきます。

将来は、学んだ知識や培った経験を生かし、人々の生活を陰ながら支える、縁の下の力持ちのような技術者になりたいです。進路は未定ですが、研究室は社会人の方との交流も多く、長期インターンシップなどの活動を通して考えています。どのような形であれインフラ整備にかかる職業に就きたいと考えています。

鹿児島国際大学など

社長同行体験を前に学習

地域企業の魅力語る

鹿児島国際大学と鹿児島相互信用金庫が連携して行うインターンシップ「3日間社長のカバン持ち体験」の事前学習が8日、鹿児島市の同信用金庫本部ビルで行われた。参加した18人の学生は、職場体験を前に社会人の基本や心構えを学んだ。

同事業は学生が経営者に同行し、トップの視点に触れるユニークな取り組み。8日はマナーに関する講座などを実施し、本番に備えた。

事前学習を通じて社会人の基礎を学んだ＝鹿児島市の現地

学生のインターン先でもある青空木材の佐々木進社長と社員の牛垣旬ノ介氏が中小企業の特長を解説。建設業経営者との交流から得た学びを紹介し、同社のこれまでを振り返った佐々木社長は、「0（ゼロ）を1にする努力を繰り返す日々。過程の辛さ以上に喜びが大きい」と笑顔で語った。

意思による成長を訴えた牛垣氏は、「若者が少ない業界にあえて飛び込めば、同世代の人材とは差別化が図れる」とアドバイスを送った。

同大学就職キャリアセンターの橋口圭太所長は、「トップマネジメントの覚悟や使命感、情熱に触れて進路選択に役立ててほしい」と貴重な学習の機会に期待を寄せた。

高校ロボット競技県大会

加治木工高が優勝

第30回全国高等学校ロボット競技大会の県予選が8日、薩摩川内市の川内商工高校であった。県内7校8チームが挑んだ結果、加治木工業が優勝し、準優勝に鹿児島工業が入った。個性あふれるマシンでレベルの高い熱戦が繰り広げられ、会場は盛り上がりを見せた。

主催は県高等学校長協会工業部会。開会式では、主管校挨拶として大迫浩之校長が「この日に向けて試行錯誤を繰り返し、失敗を乗り越えてきたと思う。その成果が大いに発揮されることを期待する」と述べた。

競技内容は全国大会の開催地「青森」にちなんだもの。「ふじ」などに見立てたピンポン玉等を指定エリアに搬送・配置することで得点を競った。

見事に優勝した加治木工高の選手＝薩摩川内市の現地

3分間2回の競技に臨んだ生徒たちは、真剣なまなざしでリモコン・自立型ロボットを操作して巧みな技術を披露した。

見事、栄光に輝いた加治木工業高校2年の賀崎龍之介さんは「落ち着いて操縦できたことなどが逆転優勝につながった。全国では県外の猛者に負けないよう、より気合いを入れていきたい」と笑みを見せた。

全国大会の日程は10月15、16日の2日間。上位2チームが出場する。

県交通被災者たすけあい協会

はげまし大会開催

県交通被災者たすけあい協会（中村博之理事長）の第39回はげまし大会がこのほど、鹿児島市立科学館であった＝写真＝。11家族35人が参加し、かけがえのない時間を過ごした。

交通遺児の家族に勇気・活力を与えたいと毎年開催する恒例イベント。子供たちは、展示物で楽しむなどひと夏の思い出をつくった。中村理事長は、「高校を卒業して新しい社会へ巣立つまで温かく支えていきたい」と子供たちへの思いを語った。